

SDGs未来都市等進捗評価シート

福岡県福津市

2020年9月

SDGs未来都市計画名

市民共働で推進する幸せのまちづくり～津屋崎スタイル～を世界へ発信

SDGs未来都市等進捗評価シート

2019年度

1. 全体計画

計画タイトル	福岡県 福津市 SDGs未来都市計画
--------	--------------------

2030年のあるべき姿	「福津市まちづくり基本構想」に示している市の将来像「人も自然も未来につながるまち、福津。」が目指すように、人も、自然をはじめとする地域資源も、経済も、生き生きと持続的に循環し、未来へと継承するまちづくりが進んでいる。 農業・水産業の担い手が増えると共に、持続可能な観光による雇用や、事業所やコワーキングスペースなどの働く場が増えるなど、ベッドタウンを脱却して域内の経済循環が活発なまちへと転換しつつある。職住接近によって時間的にゆとりのあるライフスタイルが広がり、あらゆる世代で地域活動への参画が盛んになり、社会関係資本も豊かになっている。市民共働の多様な担い手が活躍し、身体的、精神的、社会的のいずれも健康なWell-being Cityとなり、幸せのまちづくりを国内外に発信している。
-------------	---

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール	経済 ゴール 2 ターゲット 2.3,2.4 ゴール 8 ターゲット 8.3,8.9	社会 ゴール 3 ターゲット 3.8 ゴール 4 ターゲット 4.7 ゴール 5 ターゲット 5.5 ゴール 8 ターゲット 8.9 ゴール 16 ターゲット 16.7	環境 ゴール 11 ターゲット 11.2 ゴール 14 ターゲット 14.1 ゴール 15 ターゲット 15.4,15.9
	 	    	  

優先的なゴール、ターゲットに関する KPI	#	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2030年	進捗状況や課題等（定性指標や補助指標等を含む）
	1	第1次産業就業者数	2015年国勢調査	818 人	2030年 2015年国勢調査時を下回らない
2	観光消費額	2019年	14,378 百万円	2030年 18,924 百万円	【進捗状況】調査終了により基準値、目標値を決定。2020年の実績把握には時間を要するが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により大幅な減少が見込まれる 【課題】「新しい生活様式」に対応した新たな観光施策が必要
3	昼夜間人口比率	2015年国勢調査	84.4 %	2030年 86.3 %	【進捗状況】参考数値87.0%（RESAS「滞在人口の時間別推移」による2020年1月データ）で目標値を上回っている 【課題】市内での新たな雇用の創出等、引き続き昼間人口の流出を防ぐ取り組みの実現に努める
4	従事、通学している市民で、市内で従事・通学している率	2015年国勢調査	41.2 %	2030年 44.5 %	【進捗状況】参考数値87.0%（RESAS「滞在人口の時間別推移」による2020年1月データ）で目標値を上回っている 【課題】市内での新たな雇用の創出等、引き続き昼間人口の流出を防ぐ取り組みの実現に努める
5	地域での役員に占める女性の比率	2019年	2.9 %	2030年 30.0 %	【進捗状況】2020年度12.9% 【課題】今後、減少していかないよう継続的な啓発や働きかけが必要
6	若い世代の地域活動への参加率及び参加意向率	2019年	参加率8.7 参加意向率18.9 %	2030年 2019年時点を下回らない %	【進捗状況】2019年度アンケート調査により当初値設定 【課題】本市のSDGs未来都市計画に掲げている「市民共働」を（仮称）幸せのまちづくりラボを中核に据えて進めていく。（「若い世代」とは39歳以下と設定）
7	市民のSDGs認知度・関心度	2019年	認知度18.3 関心度49.5 %	2030年 認知度84.0 関心度49.0 %	【進捗状況】2019年度アンケート調査により当初値決定。SDGsという言葉のメディア露出も増えたため、認知度・関心度は向上していると思われる 【課題】引き続き啓発活動に努める
8	健康で暮らせていると感じている人の割合	2019年	81.6 %	2030年 80.0 %	【進捗状況】2019年度アンケート調査により当初値決定 【課題】主に高齢者を対象とした健康に関する施策を進めるとともに、目標値の再設定も検討する
9	「住みやすい」と感じている人の割合	2017年	75.1 %	2030年 80.0 %	【進捗状況】2019年度アンケート調査で77.3% 【課題】引き続き安全・安心・快適なまちづくりを進め、目標達成に努める
10	自然環境の豊かさに「満足」・「やや満足」と回答した人の割合	2019年	1,286 人	2030年 660 人	【進捗状況】2019年度アンケート調査により当初値決定 【課題】環境保全の担い手育成を進めるとともに、目標値の再設定も検討する

1. 全体計画

行政体内部の推進体制	自治体SDGsの情報発信・普及啓発の取組状況・課題	有識者からの取組に対する評価
<p>■各種計画への反映状況や課題</p> <p>SDGsの理念を踏まえた内容とした「福津市まちづくり基本構想」を令和元年9月に策定。環境保全・経済成長・社会的包摂の3要素を調和させるとともに、現在の世代と将来の世代の両方の希望を満たすような持続可能なまちづくりを目指す方針を掲げ、基本構想に示す7つの目標ごとにSDGsの理念を照らし合わせて対応表を作成し、本市のSDGsへの重点的取組が可視化できるようまとめた。まちづくり基本構想の策定以降に策定した分野別計画には、SDGsの理念と環境・経済・社会の3要素の調和をはかる施策を盛り込んでいる。</p> <p>■行政体内部の執行体制及び首長のリーダーシップ</p> <p>庁内の横断的・総合的なSDGs推進のため、首長直轄のSDGs推進本部を設置し、定期的な会議を通じて情報共有を行っている。また、本市のSDGs未来都市計画の中核ともいえる「(仮称) 幸せのまちづくりラボ」設置をすすめるため、計画推進担当部署であるまちづくり推進室内に市民共働推進係を新設した。</p>	<p>■令和元年11月より約1か月間、ふくつSDGs賞の募集を行い、15件の申請を確認した。その後、SDGs賞選定委員会を経て令和2年2月に7件への表彰式を行った。</p> <p>■令和元年度において、福津市のSDGsの取組や世界的動向などを市民に伝える機会として「福津市まちづくり講座」を9回行ない、小中学校からの要請でSDGs入門の授業を行った。</p> <p>■令和元年度において、ふくつSDGsシンポジウム、G20福岡関連イベント地方創生トークンサミット、日本社会福祉学会九州部会、男女共同参画都市宣言記念講演会、JC福岡ブロックSDGsカンファレンス、ふくつ環境シンポジウム、人権講演会、福岡教育大学ESDセミナー、ソウルで開催されたGSEF主催のAsia Policy Dialogueなどで、福津市のSDGsへの取組に関する情報発信を行った。</p> <p>■一方で、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、今年度に入って市民の接触の機会を増やす方法での情報発信・普及啓発ができない状況が続いており、新たな方法の模索が必要。</p>	<p>■市民を巻き込んだSDGsの取組となる、官民の連携組織「幸せのまちづくりラボ」は評価される。一方、KPIの設定に工夫の余地があるため、更なる検討を期待する。</p> <p>■まちづくりラボの準備、大学との連携が進められており、市民のSDGsの認知、関心が高まることが期待される。まちづくりラボの取組水準を評価する指標等の検討が必要であると思料する。</p>
ステークホルダーとの連携	地方創生・地域活性化への貢献	
<p>■「(仮称) 幸せのまちづくりラボ」の設置にあたり、津屋崎ランチ有限責任事業組合にコーディネーター協力を仰ぎ、「まちラボ準備会議」と称して市民との協議を重ねている。また、SDGs推進に資する取り組みを進めている市民や団体を表彰する「ふくつSDGs賞」表彰事業を介して、慶應義塾大学大学院や福岡教育大学との連携を図っている。</p> <p>■企業や事業所誘致において、SDGsの推進に熱心な事業者による事業所開設などの連携が進んでいる。</p> <p>■国内の他自治体や海外の主体等との連携については、(仮称) 幸せのまちづくりラボ設置の進捗に合わせて連携相手や連携内容等を検討していく。</p>	<p>■今後取り組む課題として、①環境保全に対する幅広い市民の関心の向上と活動への参画拡大、②住民の年齢構成に偏りが少なく、多世代が共生できるまちづくり、③農業・水産業の後継者不足への対策や市内で働ける場所の確保、④通過型観光からの脱却及び自然環境や住民の暮らしの質を損ねない共生のアプローチによる持続可能な観光産業の振興などを挙げている。</p> <p>■SDGs未来都市計画によって以下のような貢献を狙っている。</p> <p>これまで行政のみ、若しくは市民のみでは解決が困難であった様々な地域課題に官民共同の組織「(仮称) 幸せのまちづくりラボ」が取り組むことにより、市民や団体をはじめ様々な有識者、企業等との連携や共働が進み、課題解決へと導くことができる。</p>	

1. 全体計画

	取組名	ターゲット	指標名	当初値		2019年		2021年		達成度 (%)	進捗状況や課題等 (定性指標や補助指標等を含む)
				2019年		2019年		2021年			
自治体SDGsの 推進に資する 取組の 2021年のKPI	① 地域を担う人財育成	5.5	地域での役員に占める女性の比率	2019年	2.9 %	2019年	2.9 %	2021年	10.0 %	0%	2020年は12.9%と大きく向上しており、今後減少していかないよう継続的な啓発や働きかけが必要
		8.9 4.7	市民のSDGs認知度	2019年	18.3 %	2019年	18.3 %	2021年	40.0 %	0%	SDGsに関するメディアの露出も増えているため、認知度・関心度は徐々に向上しているものと思われる
		8.9 4.7	市民のSDGs関心度	2019年	49.5 %	2019年	49.5 %	2021年	10.0 %	0%	当初値が判明した時点で目標値を上回っていたことから、目標値の再設定を検討する
		3.8	健康で暮らせていると感じている人の割合	2019年	81.6 %	2019年	81.6 %	2021年	73.7 %	0%	当初値が判明した時点で目標値を上回っていたことから、目標値の再設定を検討する
	② 共働による環境の保全・創造	14.1 15.4 15.9	コミュニティスクールで環境保全活動に参加している児童生徒数	2019年	371 人	2019年	371 人	2021年	410 人	0%	引き続き参加者の増加に努める
	③ 地域経済の基盤の確立	2.3 2.4	第1次産業就業者数	2015年	818 人	2015年	818 人	2021年	2015年 国勢調査 時を下回 らない 人	100%	高齢化による就業者の減少傾向は続いていると思われることから、「稼げる仕事」として認知され、就業者が増加するような取り組みが必要
		8.9	観光消費額	2019年	14,378 百万円	2019年	14,378 百万円	2021年	15,559 百万円	0%	新型コロナウイルスの影響で大きく落ち込むことが予測されるため、新たな観光の在り方の検討が必要
		8.3	昼夜間人口比率	2015年	84.4 %	2015年	84.4 %	2021年	85.0 %	0%	市内での新たな雇用創出に向けた取り組みを「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」に記載